

リンダ

優しい人は

いつでも

君の胸のなかにいるよ。

Wish You
Were Here

あなたがいたら

少女リンダ

1987年度カンヌ映画祭国際映画批評家連盟賞

エミリー・ロイド/トム・ベル/ジェフリー・ハッチングス/監督・脚本:デビッド・リーランド/プロデューサー:サラ・ラドクリフ

撮影:イアン・ウィルソン/編集:ジョージ・エイカース/衣裳:ショナ・ハーウッド/音楽:スタンリー・マイヤーズ/1987年/イギリス映画 [配給]ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画 herald

Wish You Were Here

•“Wish You Were Here”この言葉を直訳すれば、「あなたここにいたらいいのに、(あなたはここにはいない)」の意味。この言葉は、よく絵葉書の最後に書かれる挨拶で、監督によると、観客全員におくる監督からの愛のメッセージだそうです。

あなたがいたら 少女リンダ

“ずっと孤独で、彼女はついに家を出た。”——心が寒くなりそうなビートルズの歌詞は、この映画の主人公にピッタリ。

(ハリウッド・リポーター)

●ストーリー

1951年のイギリス。退屈な海辺の田舎町で暮らすリンダ(エミリー・ロイド)は16歳の反抗的な少女だった。変化に乏しい田舎町の生活、折り合いの悪い父親とのいがみ合いの日々。自分の生活をなんとか変えたいと望むリンダは、ボーイハントに喜びを見い出そ

うとする。

彼女がこんな反抗的な態度をとるようになったのはわけがあった。11歳の時の母の死が大きく影響しているのだ。こまっしゃくれた妹ばかりを可愛いがる父。昔女優と寝たことを皆の前で自慢する無神経な父……。こん

な父の姿をみる度、リンダは優しくった田の面影を胸にいだき、反抗的な態度に出てしまうのだ。

愛情に飢えているのに、誰もリンダの心の痛みが理解できない。そんな時、父親の友人であるエリック(トム・ベル)が現われる——。

“これは多くの女性に共通した体験です。たとえ、それがタブーであり、傷つくことが多くても、エミリー・ロイド(デイリー・ニュースより)

●イギリスのニュー・アイドルスター誕生!

16歳エミリー・ロイドのみずみずしい魅力。「あなたがいたら」の最大の魅力はエミリー・ロイドの発見である。撮影初日に主人公リンダ同様、16歳の誕生日を迎えた彼女は、

これが映画デビューとなる。「小さな恋のメロディ」のトレイシー・ハイド以来のイギリスが生んだ青春スターとしてアメリカでは映画のヒットと同時に、ファンが急増/スクリーン一杯にひろがるエミリーの躍動感。

愛に傷つきながらも、意志の強さをもつ思春期におこる危なげな少女リンダを見事に演じきっている。

男性だけでなく、女性の観客層からも大いに支持をうけそうな、新人女優の出現だ。

“ここには、絵ハガキに書かれた言葉よりも、もっと重いものがある——心からの叫びが!” (ロサンゼルス・タイムズ)

●50年代のレトロファッションに注目。

ピンクの水玉模様のワンピースや花の刺繍のついたカーディガンといったシヨナ・ハーウッド(衣裳担当)デザインによる愛らしい

ファッションも必見。ピンクのスカートをたくしあげて、さっそうと自転車に乗るリンダ。カッコイイ、すらりと伸びた足で、町の男の

子を挑発する可愛いらしい表情にドッキリ。50年代のノスタルジックな雰囲気にもピッタリ合っている。

衝撃的だが、喜劇的なノスタルジー漂う映画である。どんなにうるさい批評家も進んで宣言するだろう。

“エミリーの出現によってスターが誕生した。”と。(メイル・オン・サンデー)

●全世界を席卷する“プリティッシュ・フィルム”の熱い嵐!

87年はまさに“プリティッシュ・シネマ”の年である。「マイ・ビューティフル・ランドレット」「モナリザ」そして「眺めのいい部屋」の大ヒットなど、低迷を続けていたイギリス映画界で、中・低予算で本来のイギリスらしい映画を作る監督が登場してきているのだ。

81年度オスカーに輝いた「炎のランナー」

以来「ガンジー」「インドへの道」「キング・フィールド」「ミッション」に代表されるような、世界的大ヒットを狙う大作路線とは一味違う英国映画が今度々とニューヨーク、パリそして日本でヒット中だ。

そして、この「あなたがいたら」もその中の一。87年カンヌ映画祭で話題を呼び、国際映画批評家連盟賞を受賞、その後、アメリカでも公開され「大人の鑑賞に耐えうる見事な出来晴え。演技も技術もすべてが素晴らしい

い」とバラエティ紙に絶賛される程。大劇場でビッグヒットするような大作ではないのにもかわらず、同紙の興行ランク20位(10月8日付)で大検討中である。

監督のデビッド・リーランドは、TV、舞台、映画の脚本家(「モナリザ」の共同脚本)として主に活動しており、「あなたがいたら」は初演出作品になる。俳優としてモンティ・パイソン・シリーズや「バンテッドQ」に出演している。

茶目っ気たっぷりの演出の中に、真実と感動のある映画だ。

エミリー・ロイドは、セリフからでなく存在そのもので役を演じるすばらしい女優である。(ニューヨーク・タイムズ)

12月19日(土)新春ロードショー

連日 11:20 1:10 3:00 4:50 6:40 8:30

銀座文化1改め

シネスイッチ銀座

銀座4丁目交差点和光ウオ (561) 0707

前売鑑賞券絶賛発売中!

一般1,200円・学生1,100円・ペア券2,200円

(当日料金/一般1,500円・学生1,300円のところ)

シネスイッチ銀座は、映画をおしゃれに愉しんでいただくニュー・シアターです。